

9. 龍角西遺跡

所在地 長坂町長坂下条
調査原因 県営広域営農団地農道整備事業
調査期間 1998年5月13日～1999年3月11日
調査面積 約1,800㎡
調査主体 長坂町教育委員会
担当者 村松佳幸



龍角西遺跡は日野春小学校から北へ約300mの地点、宮川右岸の台地周辺に位置している。発掘調査は1997年度から開始しており、今年度は第2次調査にあたる。昨年度の調査は台地上で実施し、古墳時代の竪穴住居跡10軒、平安時代の竪穴住居跡5軒、掘立柱建物跡3棟などが発見された。遺物も、古墳時代の土器が住居跡からある程度まとまって出土して、資料が少なかった該期の八ヶ岳南麓の様子を解明する貴重な遺跡となった。

今年度は昨年度の調査区の南西にあたる谷部と、県道茅野・小淵沢・韮崎線（七里岩ライン）の通る低い台地の東端を調査した。標高は約654～660mである。

発見された遺構は平安時代の竪穴住居跡2軒、中世のものと思われる建物跡2軒、掘立柱建物跡3棟、竪穴状遺構2基、溝11条、土坑約70基、ピット約150基、石列2列、組石遺構2基、井戸1基等である。その他に地震の痕跡が1か所確認された。平安時代の竪穴住居跡は昨年度に続き2軒発見され、谷を挟んで西側にも集落があることが確認できた。

中世のものと思われる建物跡（写真2～4）は2基発見され、1つは約4m×4m、もう1つは約2m×2mと大きさがかなり違うが、方形に地面を掘り下げ4隅に柱穴を持っている点で共通している。覆土中からは土器片数点と5～30cm大の礫が数十点出土するだけで、あまり遺物は出土していない。住居・倉庫・緊急避難小屋・防寒小屋などの諸説があるが、何に使われていたものかは不明である。県内では、長坂インターチェンジ周辺の小和田遺跡・小和田北遺跡・小屋敷遺跡・石原田北遺跡・金生遺跡で確認されていて、現在のところ北巨摩地域に多く発見されている。

遺物は、縄文時代の土器・石器、弥生時代の磨製石鏃、古墳時代の土師器、平安時代の土師器・須恵器、中世の陶器・古銭、近～現代の陶磁器・ビン・缶などが出土している。

また、遺構ではないが、地震の痕跡が調査区中央から発見されている（写真5）。これは地震による液状化現象が調査区内の土層断面で確認されたもので、土層中の黒褐色土が液状化し、その上の黄褐色土層を分断している。その土層を観察した試掘溝の反対側の壁の土層では、黄褐色土層の下の黒褐色土層のそのまた下の白褐色土までが噴き出していた。地震発生の時期は、液状化層が縄文時代の遺物を含む黄褐色土層を分断し、平安時代以降の遺物を含む暗褐色土に覆われているので、縄文時代以降・平安時代以前と考えられる。山梨県内では、中巨摩郡甲西町の大師東丹保遺跡・油田遺跡などで確認されているが数は少なく、古代の災害を知る貴重な資料である。

このように、龍角西遺跡は縄文時代から近～現代まで様々な時代の生活の跡があり、この地域の歴史を知る上で欠くことのできない遺跡である。



写真1 第2次調査区全景（西半分）



写真2 中世の建物跡（南から）



写真3 中世の建物跡（北東から）



写真4 第1号竖穴遺構

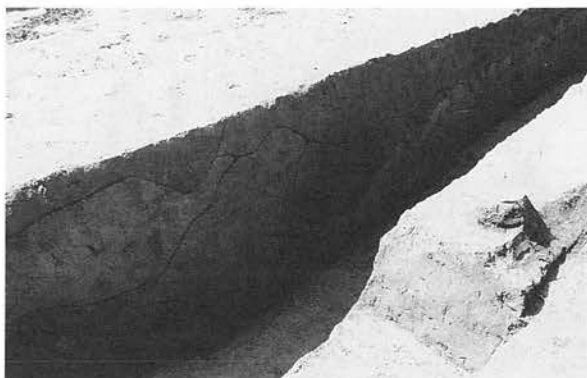


写真5 地震痕跡